



救急車は 限られた資源です

令和5年中の救急出動状況

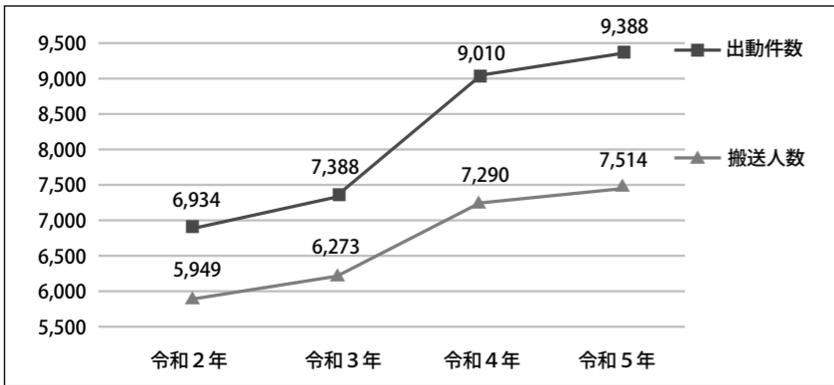
問い合わせ 帯広消防署救急課（西6南6、消防庁舎1階、☎26・9132）

救急出動件数が大幅に増加

令和5年中に帯広消防署の救急車が出動した件数は9388件、病院に搬送された人は7514人で、いずれも過去最多となりました。（図1）

救急車の台数には限りがありますので、救急車の適正利用に、ご理解とご協力をお願いします。

図1 出動件数・搬送人数



こんな時は迷わず119番

顔色が悪く呼吸が弱い、突然の激しい頭痛や胸痛があるなどの場合は、命に危険が迫っている場合があります。このような場合は、ためらわずに119番通報してください。

救急受診アプリ「Q助」

急な病気やけがをしたとき、救急車を呼ぶべきかどうかの緊急度を判定する全国版救急受診アプリ「Q助」が総務省消防庁で公開されています。（図2）
救急車を呼ぶ目安としてご利用ください。



全国版救急受診アプリ

図2 全国版救急受診アプリ「Q助」

該当する症状などを画像上で選択していくと、緊急度に応じた必要な対応が表示されます。その後、医療機関や受診手段も検索できます。

救急車を呼びましょう！
今すぐに医療機関を受診しましょう
医療機関を受診しましょう

出典：消防庁ホームページ（https://www.fdma.go.jp/）



火災から 命を守るために

令和5年中の火災発生状況

問い合わせ とかち広域消防局予防規制課（西6南6、消防庁舎3階、☎26・9124） 担当課帯広市総務部消防課

令和5年は27件の火災が発生

令和5年に帯広市内で発生した火災は27件で、前年と比べて8件減少しました。

火災の多くは生活に身近なものが原因で発生しており、1位の電気機器および電話等の配線などの電気火災は、全国的にも増加しています（表）。使用している製品

表 出火原因

順位	出火原因	件数
1位	電気機器	各4件
	電話等の配線	
2位	こんろ	各2件
	ストーブ	
3位	たばこ	各1件
	放火 ほか	

住宅火災で多くの死者が発生

全国の令和4年中の火災による死者数は、1452人で、そのうち、住宅火災による死者（放火・自殺などを除く）は、972人でした。住宅火災で死者が発生する要因として逃げ遅れが約4割を占めています。

逃げ遅れを防ぐためにも、住宅用火災警報器を設置し、火災から大切な命と財産を守りましょう。

火災を起こさないために

こんろ

- ・こんろから離れるときは、必ず火を消す。
- ・こんろの周りに燃えやすい物を置かない。



電気

- ・たこ足配線はしない。
- ・プラグやコンセント周りは、乾いた布で小まめに清掃する。



たばこ

- ・寝たばこは絶対にしない。
- ・たばこのポイ捨てやくわえたばこは絶対にしない。



ストーブ

- ・ストーブの周囲には、燃えやすいものを置かない。
- ・給油するときは、完全に火が消えたことを確認してから行う。



防火意識 向上のための デザイン画

幅広い世代の防火意識向上を図るため、市内高校のイラスト部員にポスターを作成していただきました。



作 帯広南商業高校イラスト部

点検方法



音が鳴れば正常です



火の取り扱いに 注意

4月20日～30日は春の火災予防運動

問い合わせ 帯広消防署予防課（西6南6、消防庁舎1階、☎26・9131）

春は空気が乾燥し、風が強く吹くなど、火災が発生しやすい時季です。防火意識を向上させ、火災の発生を防止するために「火を消して 不安を消して つなぐ未来」を全国統一の防火標語として、春の火災予防運動期間中にさまざまな取り組みを行います。

場所 柏林台出張所（柏林台西町2丁目）

住宅用火災警報器設置状況調査

住宅用火災警報器の設置状況や普及啓発のため、無作為に抽出した住宅を対象に調査票を郵送しますので、ご協力をお願いします。

住宅用火災警報器の点検・交換

消防車が市内を巡回し、園児の声で、火災防止を呼び掛けます。

要配慮者世帯の防火訪問

消防職員、女性消防団員が独り暮らしの高齢者世帯などを訪問し、火の用心を呼び掛けます。

古くなった消火器の回収

北海道消防設備協会帯広支部の協力により、古くなった消火器を有料で回収します。サイズにより回収費用は異なります。

日時 4月21日(日)、10時～12時